

図1 観測点配置図. +印が海底地震計の位置を示す。等深線は、破線が250m間隔、実線が500m間隔である。前期(10月1日? 10月20日) b) 後期(10月21日? 11月20日)

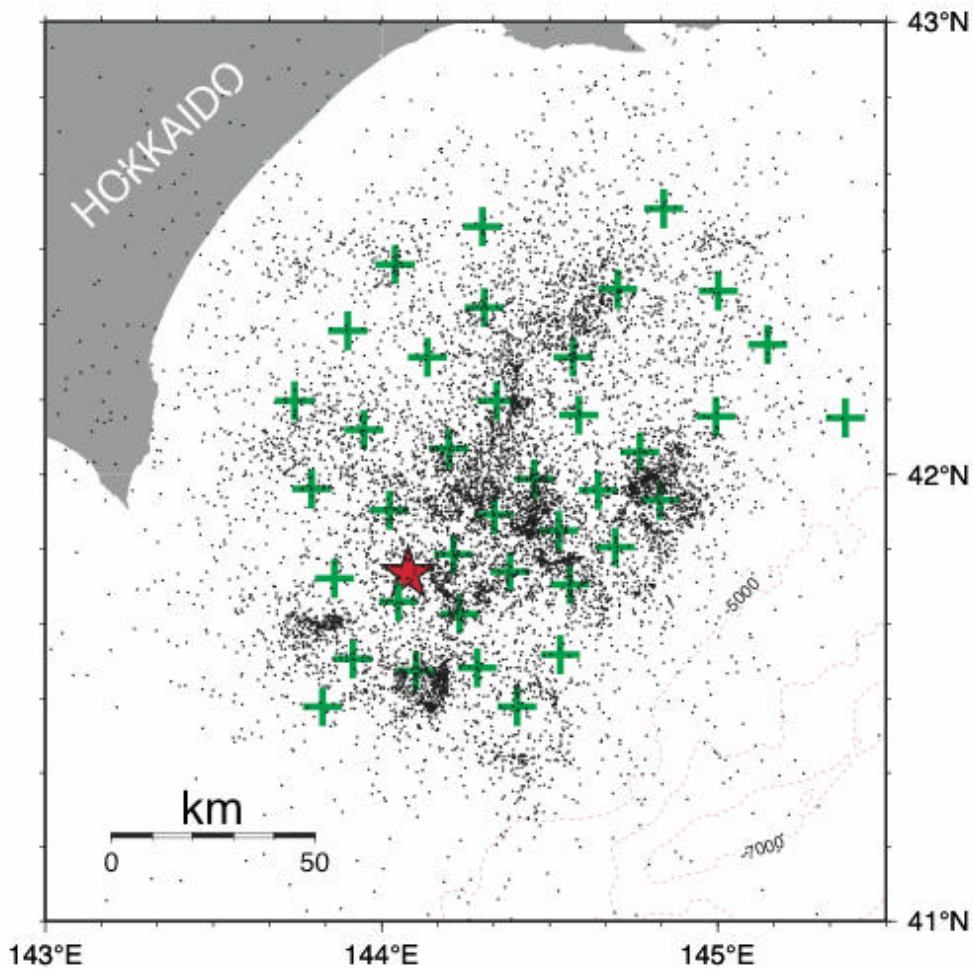


図2 自動処理による震央分布。Winシステム[ト部・束田(1992)]を用いた自動処理による震央の分布。+印が海底地震計の位置、小さな点が余震の震央をあらわす。星印は、気象庁が推定した平成15年十勝沖地震の震

央の位置である。